MTJ
THE MEDICAL&TEST JOURNAL
毎月１日、11日、21日発行
発行所　株式会社じほう
〒101-8421 東京都千代田区猿楽町1-5-15猿楽町SSビル
電話　03-3233-6351（報道局）
大　阪　支　局
〒541-0044 大阪市中央区伏見町2-1-1三井住友銀行高麗橋ビル
電話　06-6231-7061（代表）
購読申込み専用電話　03-3233-6336
購読申込みFAX　0120-657-751
ホームページ　http://www.jiho.co.jp
購読料　1年 9,450円（税込価格／送料当社負担）
©じほう 2013
禁無断複写

日本医用マススペクトル学会

走りだした「医用質量分析認定士」制度

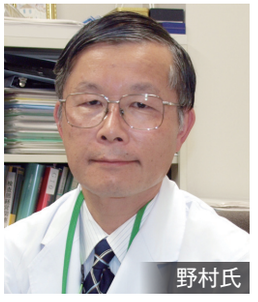
野村委員長「導入施設に1人は認定者を」

質量分析法の臨床検査への応用が進み、大学病院を筆頭に質量分析装置を導入する検査室が増えている。今後、さらに質量分析法が検査に利用されていくことを踏まえ、日本医用マススペクトル学会が「医用質量分析認定士」の育成に乗り出した。今年９月に第１回講習会を実施しており、来年にも初の「医用質量分析認定士」が誕生する。同学会の医用質量分析認定士制度委員長を務める野村文夫氏（千葉大大学院教授）は「質量分析装置を持つ施設に１人は、認定士を配置していただきたい」と述べた。

（写真提供：島根大・山口清次教授）
９月に行われた第１回講習会

質量分析法は先天代謝異常症の診断、血中薬物濃度測定、ステロイドホルモンなど臨床化学検査、病原微生物の同定などの分野で利用されている。病原微生物の同定では、これまで丸一日かかっていた同定が質量分析技術によって10分程度に短縮され、患者の早期治療開始や入院日数の短縮に貢献している。また、ランニングコストが安いというメリットもある。

野村氏は、今後さらに臨床検査分野で質量分析法の定着が進んでいくとの認識を示した上で、検査担当者が質量分析技術の基本を理解する重要性が高まっていると指摘。「質量分析に関わる人に知識という共通の基盤を持ってもらう必要性を感じ、今回の医用質量分析認定士制度の立ち上げに至った」と述べた。


野村氏

認定士取得者は質量分析法のアドバイザーとしての役割も担うことになる。「検査室のニーズに合った機種選定のアドバイス。他部署で質量分析技術を応用したい場合のアドバイスなどが期待される」と述べ、認定士の知識を広く発揮することが期待できるとした。

同学会が立ち上げた「医用質量分析認定士」制度は、質量分析法の初歩的な知識を学んだ上で医療応用に従事できる人材の育成、臨床検査法としての質量分析技術の普及と標準化を目的にしている。認定要件は同学会の会員であること、医用質量分析認定士の講習会を受講し同時に行われる小試験に合格することだ。認定は５年ごとの更新制となる。講習会は当面、年１回、同学会の年会に合わせて開催する方針だ。

また、将来的には「医用質量分析認定士」の上に「医用質量分析指導士」の創設も視野に入れている。指導士は領域別（微生物同定など）に認定する構想で、関連学会と意見交換しながらカリキュラム整備などの制度構築を進める。

受講者の過半数は検査関係者

第１回講習会は今年９月28日に開かれ、101人が受講した。受講者の内訳は臨床微生物担当者が43人、臨床化学担当者が23人、薬毒物分析が15人、代謝異常が16人などで、受講者の過半数が検査関係者だった。同日に実施した小試験の結果が今月末にも公表される予定で、合格者は「医用質量分析認定士」申請を行い、認定を取得することができる。

第２回講習会は来年10月18日に千葉で開催する。